

1. 北下条塁址

所在地 韮崎市藤井町北下条240番地
調査原因 個人住宅建設
調査期間 平成10年10月26日～10月27日
調査面積 112㎡
調査主体 韮崎市教育委員会
担当者 山下孝司



1. 遺跡立地

北下条塁址は、塩川右岸に広がる通称藤井平に所在した。藤井平は氾濫原で一見平坦地の様相を呈しているが、自然堤防状の微高地と埋没旧河道が所々に形成されており、遺跡並びに集落は微高地上に展開している。北下条塁址は、北下条集落の北端に位置していた。標高約381m。

2. 調査経緯

土塁上の竹が伐採されていることが発見され、市教育委員会において地権者である名取克夫氏に確認をとったところ個人住宅地の造成工事にかかり削平することが判明した。このため市教育委員会では急遽地権者並びに工事業者との間で協議を行い、土塁の現状遺構の把握と、築造方法の確認のために土塁を断ち割る断面発掘を行い、記録に留めることとし、宅地建設の工期を考慮して早急に調査を実施することにした。調査は平成10年（1998）10月26日から2日間行った。

3 遺構と遺物

土塁は、宅地北側の東西方向に長さ26m、幅3m、東端での高さ1.7mの規模でのこっており、西端には石の祠が祭ってある。造成は東から祠の手前までの約20mを削平する予定であり、この部分の平面図作成と、東西2カ所の土塁断ち割りトレンチを掘って断面観察を行った。

土地の関係から現状では土塁基底部は北側が高く、南側が低く50cm～60cm程の比高差があり、部分的に石を積んでいる。石積みは北側に多いようである。土塁上半部は鉢を伏せたような断面形で、表層は竹の根が繁茂している。断面土層観察では、構築方法は安定した砂地の上に形成された水田の上に土盛りしただけの構造で、版築のような搗き固めた形跡はなかった。基底部にみられる石積みは部分的であり、東西の断面を比較してみると本来土塁敷きはもう少し広めであったものが、後世削られて土留めの補強のために石が積まれたように思われる。

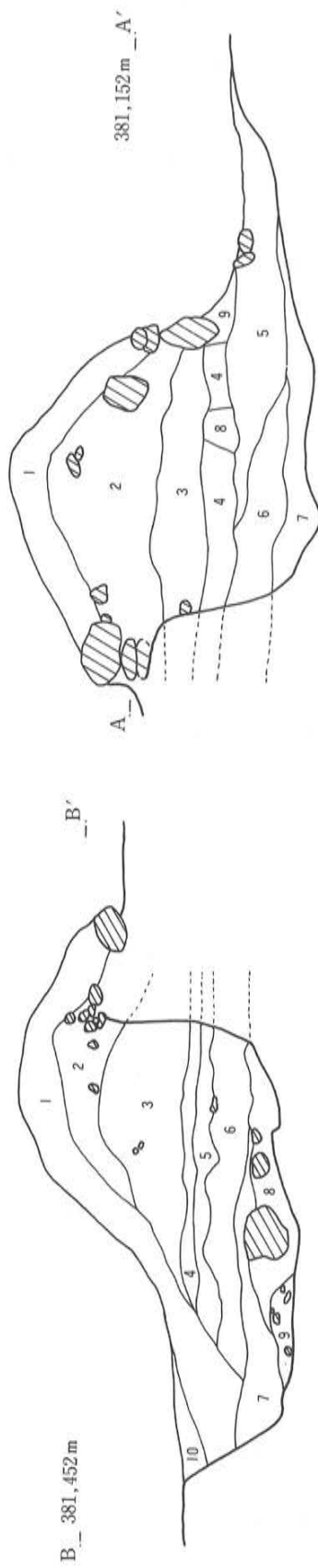
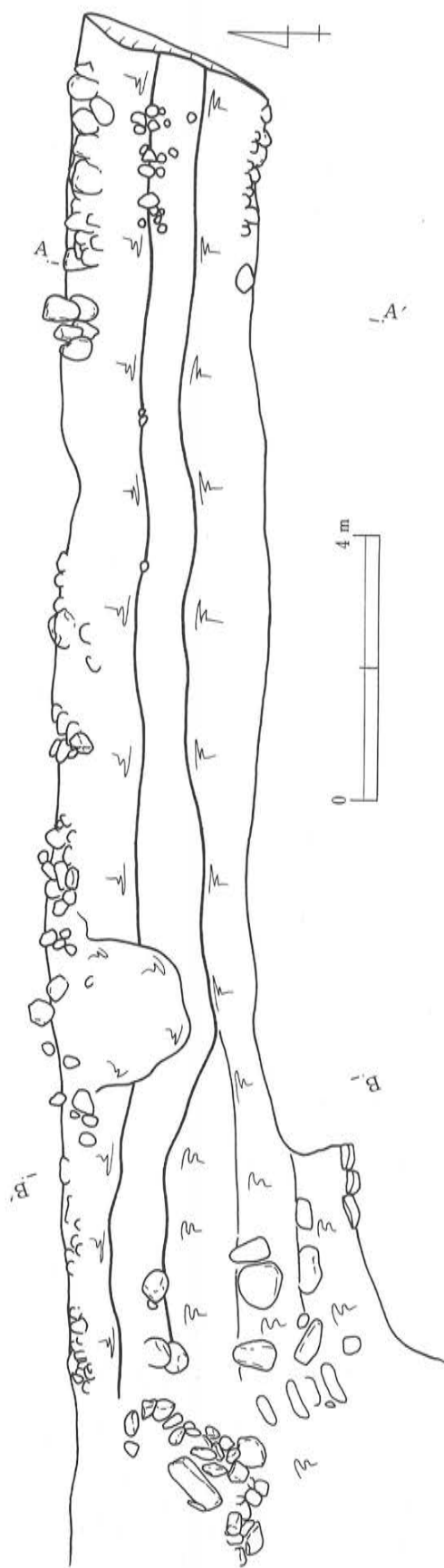
遺物は、表層から近世以降の陶器破片が出土し、それ以外には奈良・平安時代あるいはそれよりも古い段階の土器片や不明のものが数点ほど出土している。いずれも図化するには至らず、土塁の構築時期を決定するような遺物は出土しなかった。

4 まとめ

『甲斐国志』に「小山田氏ノ宅跡 北下条村 方廿間許リ壘形礎石等存セリ慈法院ニ天正五年五月五日小山田某ノ牌ヲ立ツ法名ニ慈法院宝山源光居士トアリ新府以前ノ古迹ト見エタリ」(巻四十七古跡部第十)と、小山田某の屋敷跡が北



第1図 北下条墨址調査位置図 (1/500)



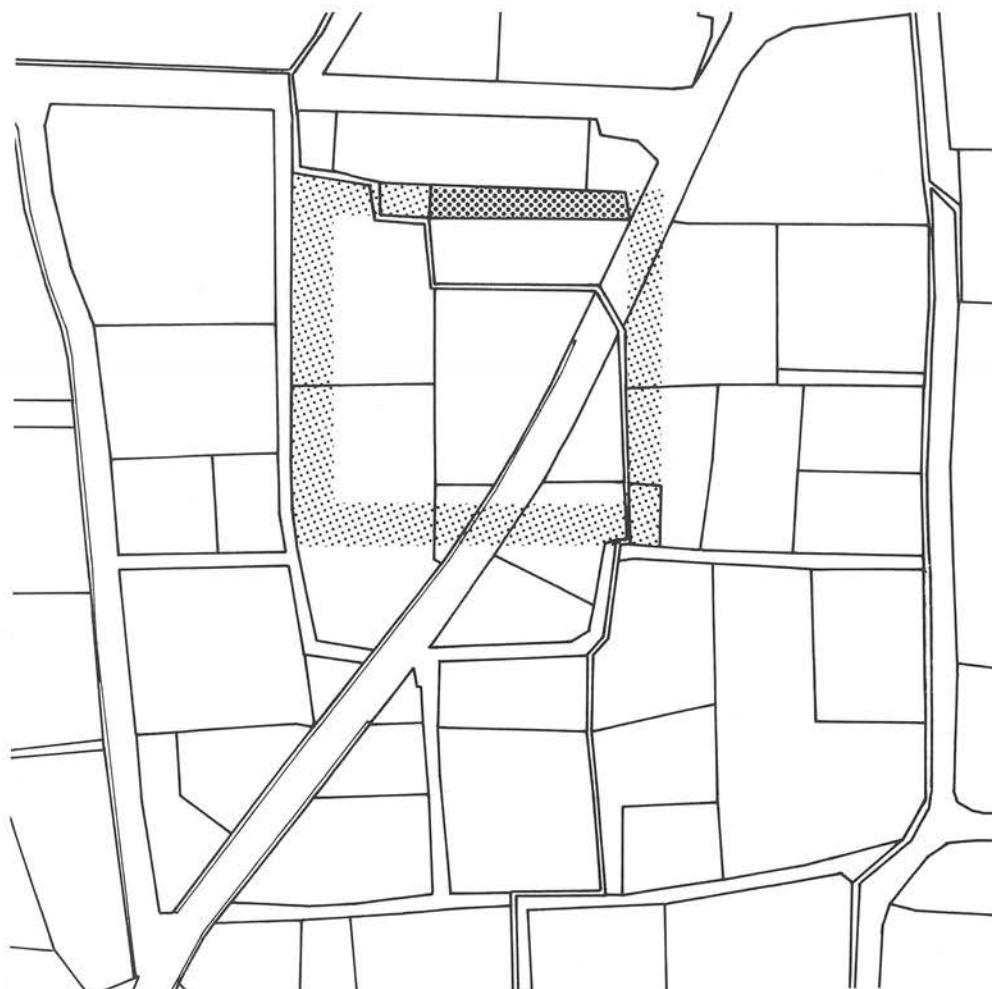
- 1 暗褐色土 (僅かな小礫を含む、ややしまりなし、竹の根多量に入る)
 2 暗褐色土 (礫・石を含む、ややしまりなし)
 3 暗褐色土 (小礫・礫かな石・鉄分を含む茶褐色土小塊・若干の炭化物粒子を含む)
 4 暗褐色土 (小礫・炭化物粒を混入、ややしまりあり、黒っぽい)
 5 暗褐色土 (鉄分沈着土層)
 6 暗褐色砂質土 (褐色土・若干の炭化物粒を混入、ややしまりあり)
 7 暗褐色土 (茶褐色土・砂・黄褐色粒を混入、しまりあり)
 8 暗褐色土 (小礫・石・若干の茶褐色土を含む)
 9 暗褐色砂 (暗褐色土・茶褐色土・石を混入)
 10 暗褐色土 (しまりなし)
- 1 暗褐色土 (僅かな小礫を含む、ややしまりなし、竹の根多量に入る)
 2 暗褐色土 (礫・石・若干の茶褐色土を混入、ややしまりなし)
 3 暗褐色土 (鉄分を含んだ茶褐色土粒・白黄褐色粒子・若干の炭化物粒子を混入、ややしまりあり)
 4 暗褐色土 (鉄分沈着土層)
 5 暗褐色砂質土 (鉄分を含んだ茶褐色土・小石粒を含む、ややしまりあり)
 6 暗褐色砂質土 (鉄分を含んだ茶褐色土を含む、しまりあり)
 7 暗褐色砂質土 (鉄分を含んだ茶褐色土を多く含む、よりしまりあり)
 8 暗褐色土 (鉄分を含んだ茶褐色土・石灰質の白色粒を混入)
 9 暗褐色土 (褐色土を含む、ややしまりなし)

第2図 北下条墨址平面図 (1/100)・断面図 (1/50)

下条村にあり、この記載によれば土塁と礎石が残っていたことがわかり、一辺36mあまりの方形居館であったことが窺える。

本土塁の詳細は不明であるが、土塁を延長して、東西の道に挟まれた部分を計測すると約45mとなり、地割等を考慮しながら土塁がめぐっていたと推定すると、その内側は36m四方の区画となる。おそらくこの部分が小山田某の屋敷跡とみて間違いのないであろう。北西の角から水路を引き込み、屋敷地に水を通し南東の隅から排水している状況が見て取れることから居館であったことが想定できよう。北下条集落はここから南にかけてのびており、微高地上に展開している。

在地土豪の屋敷地が推定されたことは重要であり、有意義な調査であった。



第3図 小山田氏屋敷地推定図（薄い網部分が推定土塁 1/1,000）



土塁近景



西側土塁断面



東側土塁断面